

第 76 回安全対策協議会終了後に委員から出された主な意見

第 76 回安全対策協議会終了後に、意見・質問用紙等により委員から出された主な意見について、その主旨を事務局において次のとおりとりまとめた。

なお、文中の矢印表記は、[資料 1](#)において類似する該当項目等を示している。

1. 安全対策に係るもの

(1) 自然災害

・日本国中、いたる所で大きな地震が多発しているので不安に思う。

→[資料 1](#) 1. ③参照 (P 1)

(2) テロ対策

・10月26日に参加した原子力発電所の視察では、テロ対策等についての対応もきちんとされていたと感じた。

→[資料 1](#) 1. ⑥参照 (P 3)

(3) 安全対策全般

・想定されるあらゆる事象に対応しているとは思いますが、想定外という事は有り得るので、ここままで絶対に大丈夫ということにはならない。生命を守るために自然災害等に対して十分な対策か不安に思う。

・安全対策の前提となる災害が想定されているが、もっと大規模な災害が発生するかもしれない、安全対策がどこまで必要かは分からない。過剰な対策まではしなくても良いが、最低ラインの対策は必要だと思う。

・安全性に対し、その努力は理解したが「どうぞ再稼働させてください」と、言うことはできない。

・日本の海域では過去にあまり例の無い軽石などの浮遊物が何キロにも及んでいる事象も起きていて、この先も何が起きるかわからず、海水に問題が生じる危険もある。

・安全対策として、あれだけの設備と投資をしながら稼働させないのは資源の無駄遣いだと思う。

・安全対策が何重にも施されており、福島第一発電所のような事故は防げるように感じた。

・国の各機関から詳細な説明を受け、相当厳密な基準に基づき対応されていることは理解できた。

- ・災害や事故発生時に起こりうるすべての事象に対し想定されるよりさらに高い水準で安全対策がとられている事は理解できた。
- ・10月23日の発電所視察に参加して、規制に規制を重ねて安全に稼働できる状態に安心した。また、トラブルの対処にも徹底した教育がなされている事を知った。
- ・自然災害等の事故発生対策に向けた取組を実際に見学でき、安全対策に努められていると実感できた。

→資料1 1. ⑨参照 (P 5)

(4) 温排水による影響

- ・毎年のように海水温が上昇し、魚種が変わってきている。再稼働することにより、温排水は周辺の海水温をより上昇させることにならないか。近くの定置漁業等に影響はないのか。

→島根県では、島根原子力発電所から放出される温排水の環境への影響を把握するため、発電所周辺の海域で水温分布等の調査を計画的に実施している。その結果は、島根県が取りまとめ、学識経験者による評価等が行われているが、2号機が稼働していた平成23年度までにおいて、生物等の個体数は過去の推移と比べ変化はなく、また沖合の海水温度も周辺海域の水温と同じであること等、特異な状況は認められていない。今後も引き続き、温排水の影響を把握するため、水温等を測定し、各々の測定項目ごとに温排水の影響に関する詳細な検討を行い、結果については広報誌「アトムの広場」等で周知していく。

2. 避難対策に係るもの

(1) 屋内退避

- ・UPZ内の住民は屋内退避を開始する計画になっているが、住民が落ち着いてそのような指示に従うか疑問。我先にいち早く避難する行動をするのでは。

→資料1 2. ①参照 (P 6)

(2) 要支援者の避難

- ・高齢者所帯ではテレビやラジオ、告知放送で案内をしても避難をすること自体を理解されない場合も想定され、自治会長が訪問するか、高齢者や要介護者を把握している民生児童委員が訪問するか、誰が責任をもって案内するか分からず心配。
- ・近隣に住む障がいを持つ方が円滑に避難できるかどうか不安。
- ・自治会では災害に関しては、殆ど説明がなく高齢者は不安を抱いている。

- ・原子力災害等の緊急時に、要支援者、例えば高齢者、障がい者の方が安全かつ円滑に避難できるかという点を最も心配している。
- ・透析もできるとのことだが本当か。糖尿病の自己注射をしている方、食事前にお薬を飲んでいての方多くの方が自宅で生活をしているのを、医療や介護関係者がサポートしているが、どう対応することになっているのか。

→資料1 2. ③参照 (P 8)

(3) 避難受入マニュアルの作成状況

- ・広域避難の受け入れ先の計画が未策定で、地元住民向けの地震や風水害災害の避難マニュアルで代用すると、安全対策協議会で聞いているが、避難先での対応が不安。避難マニュアルの概要版を市民がある程度記憶に残るまで年に一度は配布していただきたい。
- ・万一の時の避難先の受け入れ体制をしっかりと整えてから2号機の再稼働を検討してもらいたい。
- ・避難先の受け入れマニュアルが整備されていない状況であり、避難先の受け入れ自治体の人的体制が確保できるのか疑問。

→資料1 2. ⑤参照 (P 9)

(4) 複合災害時の対応

- ・天変地異に近い大規模災害時の対応が必要。
- ・島根半島の各地域は災害時の道路寸断も想定されるため、海上交通による避難など、避難方法等も柔軟に検討すべき。

→資料1 2. ⑥参照 (P 10)

(5) 避難道路の整備、橋梁の耐震化

- ・今年7月の大雨災害時にも山間部の道路が崩れて全面通行止めとなったが、様々な災害が重なったときどうなるのか不安。そのため、道路整備は必要と思う。
- ・目に見えて道路整備など避難時の基盤設備も必要と考える。

→資料1 2. ⑦参照 (P 10)

(6) 原発から放射性物質が放出された際の避難

- ・フィルターベントにより、敷地内から有害なものの拡散はないと原子力規制庁から説明を受け、広域避難の不安はやわらいだ。

→資料1 2. ⑩参照 (P 12)

(7) 避難対策の実効性

- ・避難計画は作成されているが、災害時に橋が使用可能かどうかは分からず、屋内退避も市民が指示どおり従うか疑問。避難先で家族とスムーズに合流できるか不安であり、避難計画は机上の計画だと感じている。
- ・福島事故の際には、例えば、農業に関連する被害は全国に及んだとされており、更に完璧な防災対策を望む。その上で、「人命第一」で避難対策を更に練っていただきたい。
- ・地区別の避難経路など住民に解りやすく、徹底して指導してほしい。
- ・広域避難を行う場合に、交通手段、避難先、携行品などの避難の方法の概略はイメージできるが、いざ避難をするとなれば詳細が分からず、不安に思う住民が多くいるのではないか。
- ・事前に避難方法を具体化・準備し、訓練して、関係者が理解しておくことが必要で、これは、原子力災害に限らず豪雨災害等の一般災害も同様。そのためには、各地域での体制整備が必要であるとともに、自治体が地域内の防災のアイデア、取組に対して支援し、訓練等を通じて要支援者の避難方法をより具体化していくことが必要と思う。
- ・生命を守るために安全に避難できる誘導と情報の提供をしてもらえるのか不安。
- ・原子力事故が発生した場合、不安になった方々が勝手な行動をとらないよう、大規模地震でもすぐに避難する必要性は極めて少ないなど、時間ごとに避難時のイメージができるまで徹底した訓練を実施してもらいたい。
- ・避難訓練の際、原子力発電所・関連会社・地域住民が一緒になって、訓練に参加することも信頼関係を深めることになる。三者は常に連絡を保つことが大切だと考える。

→資料1 2. ⑫参照 (P12)

(8) 避難が長期化した場合の補償

- ・長期避難になった場合の学習支援について、松江市教委、県教育委員会の協力を積極的に促していかなければならない。
- ・災害等の後、数10年という単位での時間が必要な事態にならないか、早期に元の生活に戻れるか不安。
- ・長期の避難も考えられる中、子どもたちの学習支援等どうしていくのか、教育委員会は考えておられるのか。そのようなことは避難の計画には含まれないのか。

→資料1 2. ⑬参照 (P13)

(9) 学校における避難

- ・PAZ 内 UPZ 内関係なく、仕事を抜けられない親は沢山いる。事前に緊急時に迎えに来れるのかどうかの確認を学校ごとにとっておくと、避難がよりスムーズになり、先生たちが子供に対応ができると思う。バスで移動となっているが、どの学年からのせる等も学校もしくは市教委等で話し合ってもらいたい。

→バスは必要台数確保されており、学校での対応は現状でも可能であるが、各学校等において、より円滑な避難行動に繋げるため、どの学年からバスに乗せるか等、詳細な手順を検討いただくことも有効なことと考えている。

3. 国のエネルギー政策に係るもの

(1) 原発の必要性

- ・「原発やむなし」の理解に近づけられるよう、行政や企業はエネルギーの現状・原発の必要性や安全対策、さらに再生可能エネルギーのメリット・デメリットなどを広報すべき。

→資料 1 3. ⑤参照 (P15)

- ・現状、原発に替わるエネルギーはないため、原発の必要性は認識しており、再稼働がやむを得ないことは理解しているが、島根原発 2 号機の再稼働に対して明確に結論付けることは難しく、賛成と反対、いずれにも決めがたい。
- ・地球温暖化の影響と言われている近年の災害多発の状況を考えると、原因となる CO₂ 削減が重要。現在は火力発電などに頼り、削減には自然エネルギーなどの CO₂ を排出しない発電が求められるが、それだけでは必要な電源の確保が難しく、CO₂ の排出ゼロの原子力発電を活用することは必要。10 月 23 日の発電所視察で、福島事故を踏まえた安全対策がなされており安心した。安心、安全な運転を最優先に、再稼働に賛成。
- ・原子力エネルギーの必要性は理解した。原発の必要性は理解できても「事故の危険をはらむ原発は松江にない方がいい」との意見をもつ一人であり、地域の方々も同じ意見が多い。
- ・発電時に CO₂ を出さず、安定的に大量の発電が可能で、発電コストもあまり高くない原子力発電は代替発電方法が見つかるまでの間、必要だと思う。
- ・現下の石油・ガス等の価格高騰に鑑み、10 年スパンでの当面の原子力利用（島根原発 2 号機の再稼働）は必要と考える。その間、再生可能エネルギー技術の向上と普及は必須であるので、推進して欲しい。
- ・日本のエネルギー政策の目標、地球温暖化への対応等から原子力発電の必要性は理解する。

- ・基本的には、再稼働については賛成であり、また原発事故による避難はほとんどないように思われる。
- ・原子力災害のことは心配だが、再生可能エネルギーや化石燃料だけで電源が確保できるかは疑問であり、私たちの生活や医療にも影響が出てくると思う。
- ・私の職場近くに太陽光発電設備の設置が検討されているが、設置場所により近隣住民の生活への影響や、自然破壊、老朽化による産業廃棄物の問題も発生する。電気代の上昇も考えれば単純に原発反対、再生可能エネルギーの100%導入とは言えないと思う。

→資料1 3. ⑦参照 (P16)

(2) 核燃料サイクル

- ・核燃料サイクルは本当に実現するのか疑問。
- ・使用済燃料の課題に加え、原発は廃炉までに40年もの期間が必要ということ踏まえれば、島根原発2号機の再稼働により孫の代まで影響があることから、2号機は廃止すべきと考える。
- ・原子力発電はCO₂対策としては環境にいい施策だと考えているが、プルサーマル計画は結果的にとん挫し、再燃料化計画が中途半端になり、核のごみは増え続けている。核のごみ対策は早めの結論を出していただきたい。

→資料1 3. ⑥参照 (P16)

4. 中国電力に係るもの

(1) 原子力事業者としての資質

- ・中国電力は、地域活動等に参加し、住民もその取組について説明を受け、原発も視察で見ている。人為的ミスなどはあるが、その後の改良する努力はされていると思う。一方、中国電力がそうした努力をしている中で、「特定重大事故等対処施設の審査に関する非公開ガイド」の誤廃棄などが起きたことを聞いてがっかりしている。
- ・島根原子力発電所1号機が建設される時から、不安を抱いていた。中国電力は過去何回か人為的なミスが発生している。今後はこうした人為的ミスに注意し、より一層の緊張感をもって臨んで欲しい。

→資料1 4. ②参照 (P17)

(2) 原子力事業者としての責任

- ・実際に自分の目で見てみると様々な努力をされている事がわかった。中国電力が原発に関する方針を主張する動画は、良い評価が大多数だが、怒りを表した人も1割程度あったようだ。

→資料1 4. ④参照 (P17)

5. その他

- ・稼働すれば「安心して暮らせない地域」とならないように私たちが常に関心を持つことが大切である。
- ・島根県の子供達はとても永い期間、原発と向き合っていくことになる。原発の立地県として、常時の心構え（節電・原子力への関心・原子力災害時の避難など）を幼い頃から理解し、地元の子供の中から原子力発電所の技術者になってくれることを強く希望する。国や中国電力の方でも、島根県に永住し原発の行く末を見ていただける方に説明をしてもらいたいと思う。
- ・人々の豊かな生活のため、その維持のための政策であり、会社運営ではあるが、今までの先行した事例を見る限り、成功例は1つもない。チェルノブイリしかり、プルサーマル施設しかり、そして福島しかり、六ヶ所村にしても、止まっている。「何とかなる。」ではすまされない悲しい実情がある限り、再稼働はやめるべき。後処理にも時間とお金はかかるが、将来に悲劇を起こさないためにも、中止すべき。
- ・いつから身近に感じ自分ごとのようにみんながとらえて動けるのか。稼働ということになってから、緊急時の対応について話し合っは何かが起こってしまうかもしれないため、稼働する前に学校、病院、職場、地域等にもっと働きかけ、何をしていかなければならないのかを誰かがどこかで発信していないと、なかなか前には進まない。
- ・2号機の稼働は安全第一に各市町村の合意の下で稼働するべき。
- ・原子力は、電力需給には欠かせない存在だが安全に供給出来る事が最大の条件。
- ・現在、島根原発内では3,100人の方が働き、経済効果として交通、宿泊や飲食などの多くの職種や、島根に限らない地域への波及があると思った。
- ・私も含め、皆がもう少し暮らし方を考えなければいけないのではないかな。